

## ・下野市薬師寺地区伝統的景観要素分布調査

小山工業高等専門学校 歴史環境計画研究室

2020年2月

### 1. はじめに

下野市は関東平野の北部、栃木県の中南部に位置し、凹凸の少ない平坦な地理的条件を有し、冬の積雪、夏の台風の被害も少なく自然環境に恵まれている。西部に姿川・思川、東部に田川・鬼怒川が南流し、河川に接した低地には水田地帯、低地と対になる台地上には300年の生産の歴史をもつ干瓢生産のための夕顔畑が広がり、豊かな農業景観を形成している。

下野市は古代における東山道の整備や下野薬師寺、下野国分寺、下野国分尼寺の建立によって関東の政治・文化の中心地として繁栄し、発展してきた。

また、江戸時代には交通・物流の動脈路線として機能した日光街道・日光東往還・日光西街道が整備され、それに付随する各集落も発展した。

下野薬師寺、下野国分寺、下野国分尼寺の寺跡は大正10年に栃木県で初めて国の史跡に指定されるなど、これまでおよそ100年の間、地域住民の協力を得ながら保護と調査、整備が行われてきた。市内には縄文時代から旧石器時代の遺跡を含め、500か所を超える埋蔵文化財包蔵地が所在する。その面積比率は県内でも高く、年間を通じて市内各所で発掘調査、試掘調査が行われ、史跡や出土遺跡など、埋蔵文化財関係の指定文化財が多いという。

近年、下野市では下野市歴史的風致維持向上計画が認定され、古くから受け継がれてきた文化財や歴史的景観を守り、未来へと継承し、豊かなまちづくりを進める動きが進展している。しかし、埋蔵文化財の調査に比べて、有形文化財の調査は必ずしも進んでおらず、有形文化財の中でも、特に建造物の指定件数は少ない。よって、文化財候補となる建造物の選定が必要で、まず、下野市における伝統的建造物の残存状況を把握する必要がある。

よって、本調査は、伝統的建造物が多く残ると目される下野市薬師寺地区を対象に伝統的景観要素分布調査を実施する。本調査では町並みを含めた建造物の残存状況の把握と町の特徴および歴史的連続性の有無の把握を目的とする。

本報告書の本文の執筆は安高尚毅が担当し、図表は徳竹智可良が作成し、安高尚毅が調整を行い、編集も担当した。

## 2. 薬師寺地区の概要

今回の調査は「薬師寺村伍組絵図面」に描かれた範囲を調査範囲としている。この地区は江戸時代に薬師寺村に属し、日光東往還が南北に走り、町場として発展していたことが知られている。薬師寺村は慶長 10 年（1605）には出羽秋田藩領となり、天保 3 年（1832）からは幕府旗本白須氏の相給であった。古文書から江戸時代には町扱いされていたことが窺い知れ、江戸時代には薬師寺町と呼ばれた時期もあったようである（よって、以下より本地区を旧薬師寺町と呼ぶこととする）。寛文 4 年（1664）の「薬師寺村明細帳」の検地の際に、町割りがなされ、町建てされたことが知られている。町場は薬師寺村の台地上に位置し、周辺と比べて高くなった土地に町並みが展開している。寛文年間には石町・横町・上町・中町・下町・木町が確認される。また、野菜市が 1・6 の六斎市で開かれ、馬市が春秋に 2 回開かれ、町場として江戸時代に機能していたことが知られている。

### 2-1. 調査概要

旧薬師寺町に存在する伝統的環境資源の残存状況を確認するため、伝統的建造物、工作物、樹木などの伝統的景観を構成する要素について、環境資源調査を実施した。詳細は以下のとおりである。

- ・ 調査日

2019 年 10 月 10 日、11 月 15 日の 2 日間

- ・ 調査範囲

「薬師寺村伍組絵図面」を現代の地図と比較し、絵図に描かれた範囲を調査範囲とした。

- ・ 調査方法

建築物の位置、建築形式、構造形式、屋根形式、入り口（妻入・平入）、建築年代、規模、状態、居住者のほか、祠、門柱、石塚、樹齢 50 年以上と推定される樹木の確認を行い、都市計画図上にプロットを行った。

- ・ 調査員

安高 尚毅（小山高専准教授）

斎藤 舞（小山高専専攻科）

徳竹 智可良（小山高専五年）

前澤 実優（同上）

滝沢 魁（同上）

### 2-2. 旧薬師寺町における環境資源調査結果

現地調査で得た情報を元に、建造物の外構形式の一覧表を作成した（表 1）。また、本調査では主要な主屋と蔵について調査を実施したが、家屋台帳をもとにすると 50 年以上経つ納屋などを含む付属屋が 161 棟確認でき、伝統的形式を伴ったものは表（表 2）に追加して示している。

・内訳

調査の結果、93棟（件）の伝統的建造物が残存している事が判明した。

内訳

伝統的建造物 93棟（件）のうち、

屋敷 41棟

蔵 33棟

小屋 10棟

寺社 5棟

町家 4棟

現存する伝統的建造物は、屋敷が41棟、蔵が33棟、小屋が10棟、寺社が5棟、町家が4棟であった。今回の調査で、最も多く残存が確認出来たのは屋敷であるが、付属屋としては蔵が多い結果となった。

・屋根形式

屋敷では、切妻平入形式が9.8%、入母屋平入形式が58.5%、寄棟平入形式が24.4%を占め、入母屋妻入形式が7.3%存在した。

蔵では、切妻平入形式が84.8%を占めるなど、多数を占めているが、入母屋平入形式と切妻妻入形式が6%存在する。

寺社では、入母屋平入形式が80%を占め、寄棟平入形式が20.0%存在する。

小屋では、切妻平入形式が80%を占め、入母屋平入形式が20%存在した。

町屋では、切妻平入形式が75%を占め、切妻妻入形式が25%存在した。

蔵、寺社、小屋、町家、屋敷の全てにおいて平入りが卓越しており、中でも切妻平入、入母屋平入が多く見られた。

調査により判明した蔵、寺社、小屋、町家、屋敷の屋根形式について以下の表にまとめた。

表 環境資源調査 内訳											
		蔵		寺社		小屋		町家		屋敷	
		軒数	割合(%)	軒数	割合(%)	軒数	割合(%)	軒数	割合(%)	軒数	割合(%)
平入	切妻	28	84.8	0	0	8	80	3	75	4	9.8
	入母屋	2	6.0	4	80.0	2	20	0	0	24	58.5
	寄せ棟	0	0	1	20.0	0	0	0	0	10	24.4
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
妻入	切妻	2	6.0	0	0	0	0	1	25	0	0
	入母屋	0	0	0	0	0	0	0	0	3	7.3
	寄せ棟	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明		1	3.0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		33		5		10		4		41	

### 3. 明治期旧薬師寺町の都市形態

#### 3-1. 明治期旧薬師寺町の都市復原図の作成

都市復原図を作成する目的は、そこから形態的な特徴を読み取り、空間構造の継承性を捉え、都市の形成過程を推察するためである。旧薬師寺町の都市復原図を作成することのできる資料として「薬師寺村伍組絵図面」（図3）がある。

明治4年、政府は廃藩置県に先立ち戸籍調査を行い、伍組絵図面を作成した。これに伴い作成されたのが「薬師寺村伍組絵図面」である。本絵図からは、明治初年の人家の分布状況および戸主名や組番号を把握することができる。また、凡例から道路が赤色、畑が茶色、屋敷及び神社が白色、田が黄色、川が緑色で記されていることが知られる。さらには畑及び屋敷、田、神社が文字にて表記されている。現代の地図と見比べると所々、整合性に疑問が持たれるが、道筋や屋敷割、社寺の位置など現状と比定できる点が多く、都市復原図を作成するには信頼のおける資料と言える。

以上より、「薬師寺村伍組絵図面」を明治期における町並みの全体構成を探る基本資料とし、現状の地形図に照合し、明治期の下野市旧薬師寺町都市復原図を作成した（図4）。

以下、町並みの考察をこの下野市旧薬師寺町都市復原図を基に行っていく。

#### 3-2. 明治期薬師寺地区の空間構成

薬師寺村は西側の台地と東側低地部分からなる。村の中央を南北に走る日光東住還に沿って町場が発展し、これを取り巻く形で大坂・下原・下影・北原等の集落が形成されたことが知られている。町並みは西側の台地上に展開し、下野市旧薬師寺町都市復原図（図4）を見ると、明治期の旧薬師寺町の町並みは、日光東住還沿いに南北に細長く延びて展開する。この通りに沿って両側に短冊地割りが展開し、町並みの骨格を成す。さらに、主街路から西に7本、東に6本、細街路が延びる。これら細街路の一部には主街路と同様に、短冊地割りが展開する。図3から窺える寺社を除く屋敷地は総計176筆で、その内訳は戸数163筆、持添地12筆、借地1筆が確認される。東部は戸数が83筆、持添地が8筆、西部は戸数が81筆、持添地が4筆、借地1筆を数える。天保14年の「村高家数書上帳」によれば薬師寺村の家数は177戸で、単純に比較はできないものの、1戸の差があるのみで、屋敷数はおおよそその一致を見ることができる。町場は南から木町、下町、中町、上町、横町、石町に分かれる。また、龍興寺・安養院・天王社・八幡宮の寺社が確認される。

現在の町並みもこの明治期の絵図面の状態を引き継いでいると見ることができ、町並みの骨格および地割りは継承されていることが確認される。

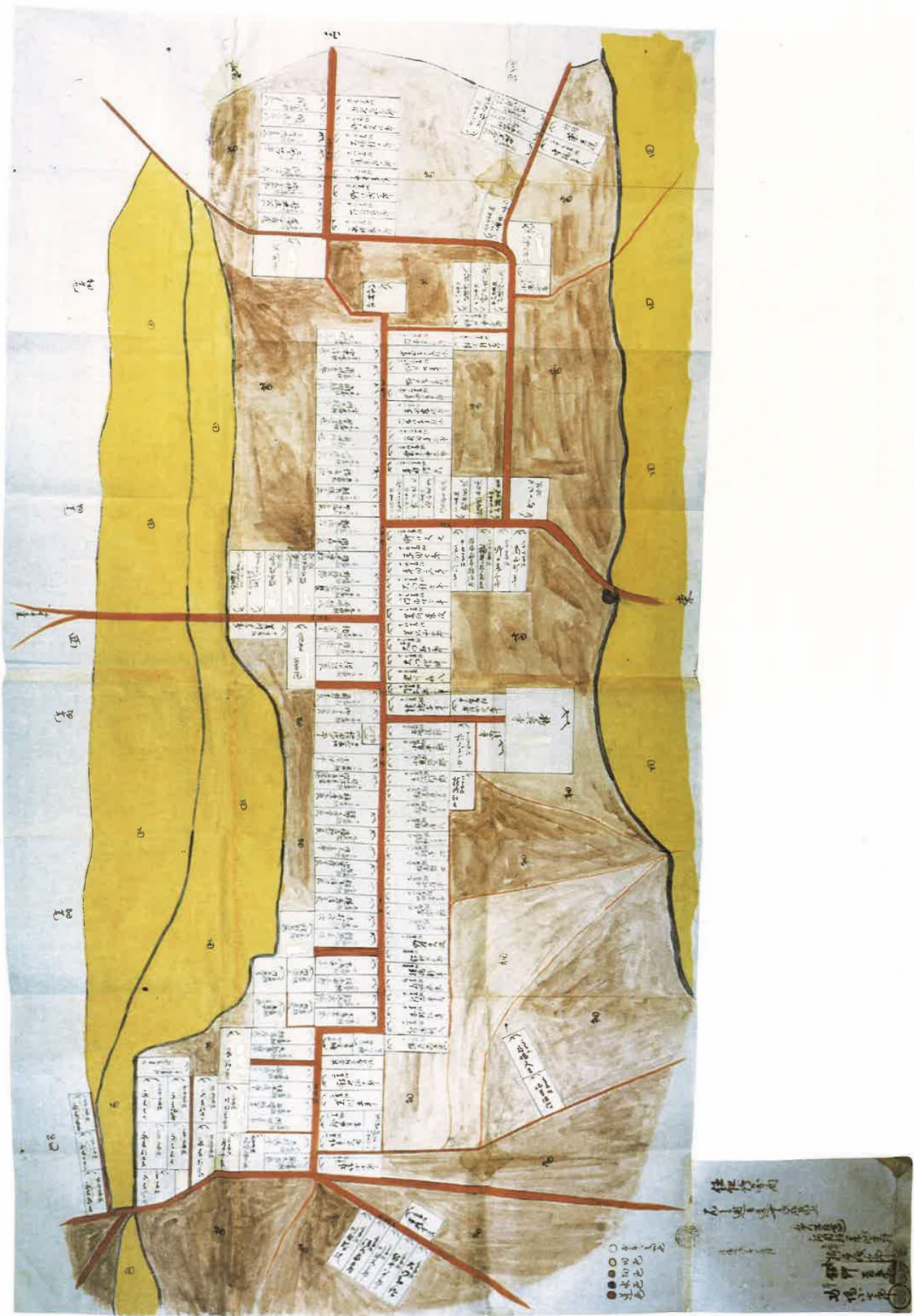
#### 結論

以上より、旧薬師寺町は伝統的建造物が多く残存していることが明らかとなった。現地調査では93棟の伝統的建造物を把握することができた。また、家屋台帳からは主に付属屋であるが、161棟の50年を経過した建造物が存在することも明らかとなった。

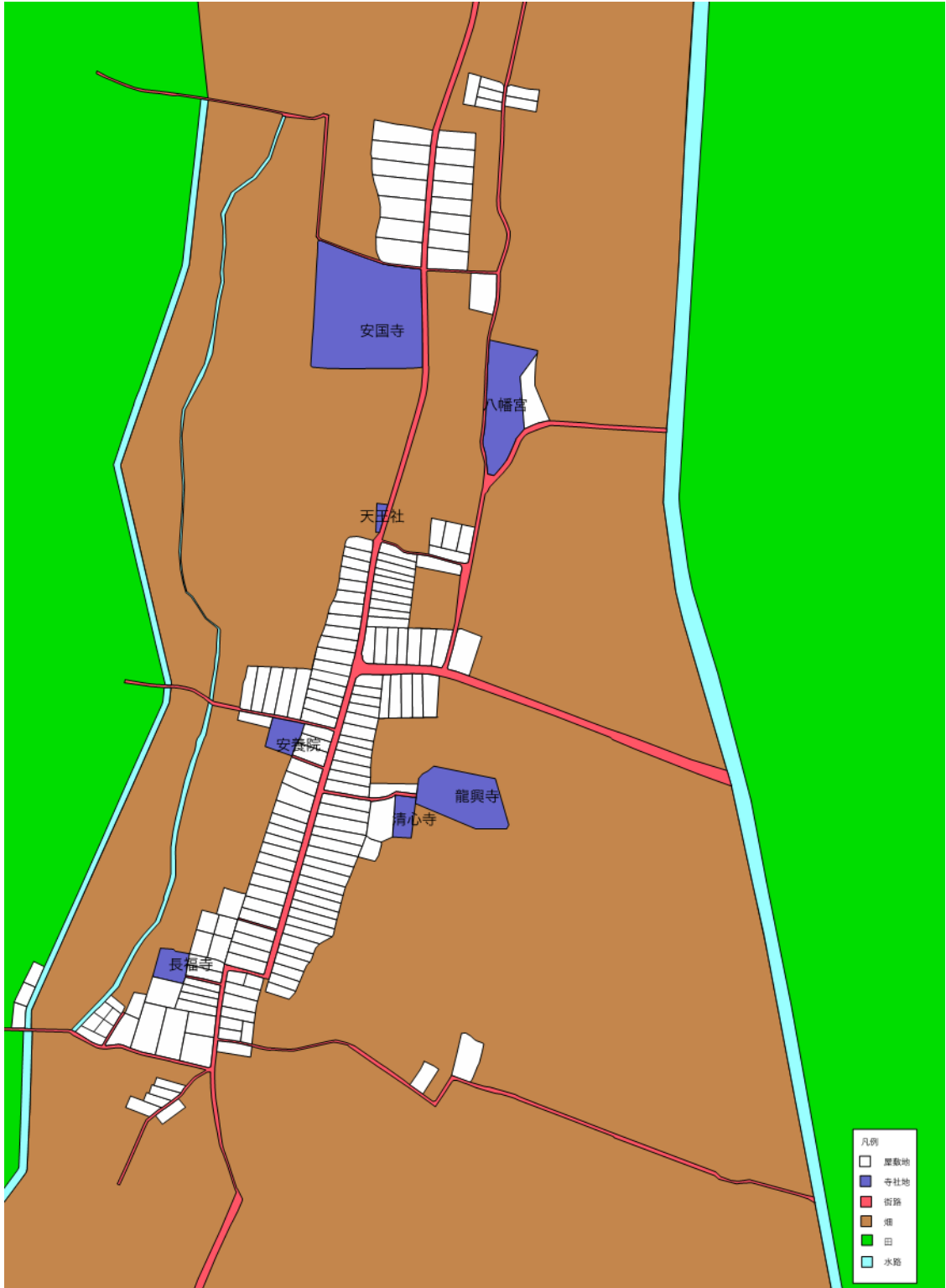
さらに、都市復原考察からは、江戸時代に成立した都市空間の骨格を明治を経て現代まで継承されていることが明らかとなった。町並みの都市形態とその上に存在する建造物に歴史的連続性があることが把握された。

来年度以降これら建造物の詳細な調査を行えば、伝統的建造物の価値だけでなく、町並みの価値も明らかになっていくと考えられる。

下野市の歴史的景観を守り、未来へと継承し、豊かなまちづくりを行うためにも是非、建造物の詳細調査を行うべきであろう。



(图3)「薬師寺村伍組絵図面」



(图 4) 下野市旧薬師寺町都市復原图